

6) 靈的エクササイズ 3. 2020年4月17日

朗読 使徒言行録4：1-12

福音 ヨハネ21：1-14

父と子と聖霊の御名によって アーメン

イエス・キリストとマリアは賛美されますように。兄弟姉妹の皆さん、今日は金曜日です。一週間前は聖金曜日でした。イエスは十字架上でむごたらしい死を体験されました。今でも私たちには、イエスを十字架に付けるハンマーの音が聞こえます。「わたしの神よ、なぜわたしを見捨てられたのですか？」という声が聞こえます。

三日目にイエスは復活されました。私たちは、「ハレルヤ！」と大きな喜びとともに祝いました。

そして、聖金曜日から一週間経ったこの金曜日、私はどこに立っているのでしょうか？ 皆さん、私たちは今どの位置にいるのでしょうか？ いまだにイエスを釘づける音が聞こえるのは、今の特別な状況のために「ハレルヤ」をあまり歌っていないからでしょうか？ 皆でミサ聖祭を祝えないからでしょうか？

しかし、教会は、典礼は、大変貴重な、私たちの助けになる「みことば」を提供してくれます。そして、それはイエスからのメッセージを深めてくれるのです。

今、私たちは靈的な黙想会をしています。それはどういう意味かということ、普段よりも深く祈るための時間を取り、みことばと取り組むため、みことばと自分自身とが向かい合うための時間を取るといことです。

みことばを読み、「今読んだ箇所の中で自分はどこにいるだろうか？」と考えてみてください。あるいは、このテキストのどこが自分の心に触れるか、このテキストの中で疑問が湧いたところはないか、と。

疑問、質問が心にあるときは、少しそこに留まって黙想してください。

この靈的食べ物、ファーストフードではありません。「フレンツ神父が毎日数分話している考察を聞けばすべて完了」というわけにはいかないのです。

私は毎日こうして皆さんのためにお話しすることを、司祭としてとても嬉しく感じています。しかし、これはきっかけに過ぎません。このきっかけを利用して、みなさんの一人一人がみことばを深く味わい、自分に何を伝えているかを発見し、この先どう歩んでいくべきか、、、などを神と語り、神にあなたの人生を実り豊かなものにしていただくことが大切なのです。

今日はヨハネの福音書21章を読みます。漁に出かける話です。使徒たちの職業は漁師でしたね。何も獲れないでいると、イエスが現れて、「舟の右側に網を打ちなさい」と言われました。そして、後には、「わたしに従いなさい」と言われます。

その夜、ペトロたちには何の収穫もありませんでした。そこに現れたイエスは何と言われましたか？

「子たちよ」です。「子供たちよ」と言われたのです。それでも、自分たちを「子たちよ」という人が誰か、弟子たちには分かりませんでした。大漁になり、網が破れそうになったとき、はじめてイエスに気付いたのです。

イエスが最も愛した弟子ヨハネが気づいて「主だ！」と言いました。愛によってヨハネは主を認めたのです。『愛』は起爆剤です。いつでも、『愛』が一番先に『知る』ことができるのです。それを聞いたペトロは、真っ先に行動を起こします。急いで上着を来て湖に飛び込みました。いち早くイエスのところに行こうと、泳ぎに泳いだのではないのでしょうか？世界記録を出したかも知れませんか。ペトロはイエスのそばにいたかったのです。私たちもイエスのそばにいたいという望みを持つべきです。「イエスのおそばにいたい。ここがわたしの場所だ」と。

弟子たちが漁に出た時、イエスを見てもそれが主だとは分かりませんでした。でも、皆さん、イエスはいつも私たちのそばにおいでになり、私たちをご覧になっています。次のエピソードを思い出してください。弟子たちが舟に乗って向こう岸に行こうとしたとき、強い風が吹いて湖が荒れ始めました。それをイエスは見えておられ、湖の上を歩いて来られたのです。（ヨハネ6：16-21）

イエスは私たちをいつも見ておられるのです。私たちが嵐にあって必死に舟を漕いでいるときも、恐れの中にあるときも、心配事を抱えているときも。

しかし、今日の福音の箇所では湖は凧（な）いでいます。イエスは、「子たちよ」と声をかけられます。今朝、私は今日の黙想は、「イエスの優しさについて」おこなうように促しを受けました。

みなさん、イエスがこう言われたのを覚えていますか？「疲れた者、重荷を負う者は誰でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛（くびき）を負い、わたしに学びなさい。そうすればあなた方は安らぎを得られる。」（マタイ11：28-29）

「来なさい、わたしのもとへ。あなた方は何もする必要はないのだ。わたしのそばに留まるだけでよい」と言われているのです。イエスは弟子たちを決して落胆させたりしません。

イエスは、彼の子供たちが彼をめがけて走り寄り、泳いで来るのをご覧になりたいのです。そうすれば、イエスが子供たち、私たちを腕に抱くことがおできになるからです。

兄弟姉妹の皆さん、こうして福音を、みことばを一回、二回、、、数回読んでください。
きっと、さらに驚くような発見、体験をされるでしょう。

いつも何かを発見するというわけではないかも知れません。しかし、同じ箇所を何度も読んでいるとき、突然、目が、心がそこで止まることがあります。それは、たった一言かも知れません。

私の場合、今朝は、「子たちよ」という言葉が心に響きました。「わたしの子供たちよ」という一言が、イエスの優しさが心に迫ってきたのです。こういう時は、しばらくそこに留まり憩い、楽しみましょう。

皆さん、この黙想会を通して、イエスの御心に入っていきます。聖母が私たちを助けてくださいますように。主が祝福してくださいますように。聖霊がみ力で満たしてくださいますように。

子供のような大きな期待をもってイエスのもとへ行き、留まりましょう。

父と子と聖霊の御名によって、アーメン

復活されたイエスの愛のうちに、良い1日を過ごすことができますように。